

防災ワークショップ「災害からペットを守る」の開催報告

日本動物愛護協会主催、北海道、札幌市、北海道獣医師会等の後援によるペットの防災を考えるワークショップが、令和7年5月3日（土）に「札幌市かでのアスピックホール」にて開催された。このワークショップは、令和6年に発生した能登半島地震でのペット避難の事例を契機にNHK財団にて企画され、東京、つくばに続き、札幌会場は3カ所目の開催とのこと。当日は大型連休期間中にもかかわらず、約150名の参加者があった。

ワークショップでは、ペットの防災に関する第一人者である日本動物愛護協会の評議員でNPO法人「ANICE」（アナイス）代表の平井潤子さん（前東京都獣医師会事務局長）が講師を務め、大地震を想定してペットと避難する時の注意点や日頃の備えを学ぶ第1部「避難シミュレーション」、NHKのチョコちゃんが出題者となり防災の知識を楽しく学ぶ第2部「チョコちゃん防災クイズショー」、7年前の胆振東部地震の事例を参考にした第3部「災害現場に学ぶQ&A」の3部構成で行われた。

第1部では、地震発生直後の「初動対応」として、まず飼い主が自分の命を守る行動を確認することから始め、その上でペットとの避難について「在宅避難」、「マイカー避難」、「避難所への避難」の3つのパターンでの注意点について考え、ペットの防災に不可欠な「普段から備えておくもの」として、フード、ケージ、健康記録、行方不明になってしまった時のための写真、「普段から心がけておくこと」として、避難予習、ワクチン、ケージ慣れ、そしてペットを預ける覚悟についてのアドバイスがあった。第2部では北海道の災害に特化したクイズが出題され、暴風雪特別警報や、対象地域になっているにも関わらず認知度の低い北海道・三陸沖後発地震注意情報などの重要な気象災害用語が解説された。第3部では、2018年に発生した胆振東部地震の際の対応がケーススタ



登壇する前谷副会長

胆振東部地震の事例を紹介

ディとして取り上げられた。当時の現場で犬猫の臨床に携わった本会の前谷副会長がゲストとして登壇し、2000年の有珠山噴火の際に、獣医師会、自治体、ボランティア団体による三位一体の体制を構築した経験が胆振東部地震の際の迅速な対応につながったという事例を関係者の証言を集めたりレポートと共に紹介、災害時に地域が緊密に連携することの大切さを伝えた。

最後に、講師より、「自助」という言葉を「飼い主力」・「防災力」という言葉に置き換えて、どんな備えが必要か、何が大事かを過去の災害から学び、「飼い主力と防災力を高める」ことが重要とのメッセージを参加者に発信して「災害からペットを守る」ワークショップを終了した。

なお、過去に開催された防災ワークショップの内容は、NHK財団のHP「ステラnet」に掲載されている。

(北獣事務局 中村 和弘 記)